

(8) タカ目

① トビ (タカ科)

ア 対象種

トビ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 トビ
- ・ 鳴き声から ピードリ
- ・ " (幼児向け) ヒーヒョロ、ピーヒョロ、ピーヒョロヒョロ、ピーヒョロロ、ヒューヒョロ
- ・ その他 トンビ

エ 生息及び呼び名の状況

野山や田畑などで空高く舞う姿が見かけられた大型の猛禽類の留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。

当時は空高くで輪を描くように飛び、ピーヒョロといった特徴的な鳴き声をあげる鳥として住民によく認識されていた一般的な鳥であったが、現在、郡域で姿を見かけることは少ない。本種の呼び名としては、「トンビ」や「ピーヒョロ」をはじめ計8種を採録した。

郡内全域で「トンビ」と呼ばれたほか、幼児向けには鳴き声に由来し「ピーヒョロ」、「ヒーヒョロ」等と呼ばれた。

オ 聞きなし

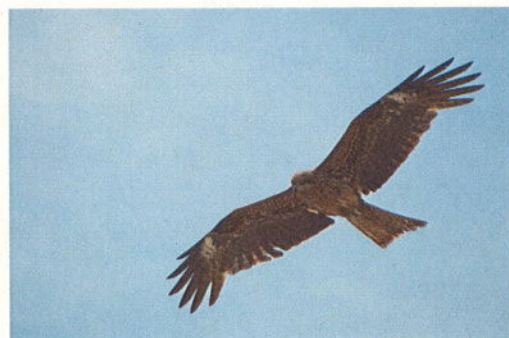
全集落で聞きなしを採録した。

なお、多くの回答者から現在一般的な「ピーヒョロ」等を採録する一方、大正時代生まれの古老から「ヒーヒョロ」の回答もみられ、かつて本地域では「ヒーヒョロ」とも鳴くと言われていたようである。

- ・ ヒーヒョロ
- ・ ピーヒョロ
- ・ ヒューヒョロロ
- ・ ピーヒョロヒョロ
- ・ ピーヒョロロ
- ・ ピーヒョロロー
- ・ ピーヒョロアメガフル ピーヒョロアメガフル (：ピーヒョロ雨が降る ピーヒョロ雨が降る (雨降り前の鳴き声))

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「トンビが鳴くと天気が続く」
- ・ 「トンビが日和を上げると天気 (又は 晴れ)」
- ・ 「トンビが横切ると雨」
- ・ 「トンビが回ると晴れ、回らずに飛ぶと雨」
- ・ 「トンビは目が利く」



② サシバ (中小型類) (タカ科)

ア 対象種

サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ等

イ 生息情報

山辺の集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 体色から マグソ、マグソダカ

エ 生息及び呼び名の状況

主として山辺で飛翔が見かけられる中小型の猛禽類の夏の渡り鳥であり、当時は一定の標高のある山林に飛来した。山での飛翔が多いことから山辺の地域の住民を中心に一定の認識はみられた。

呼び名の対象となっていたのは、サシバをはじめとした茶色がかった猛禽類とみられる。

本種の呼び名としては、「マグソ」と「マグソダカ」の計2種を採録した。

猟や炭焼き等の山仕事で山によく入った山辺の集落を中心とした人々の間で、体色が馬糞に似ていることに由来し「マグソ」や「マグソダカ」と呼ばれたほか、他の呼び名はみられなかった。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ ピッピー



サシバ



カ その他

聴き取りの中で、元猟師を中心に他のタカ目等の鳥類についての呼び名を採録し、とりわけイヌワシやオオタカについては、山での具体的な生息の話がみられた。

分類	鳥類の名称	採録した呼び名
タカ目タカ科	オオタカ	オータカ、オーダカ、オーワシ
〃	イヌワシ	イヌワシ
〃	ハイタカ	ハイタカ
〃	クマタカ	クマタカ (トンビより高い所を飛び、羽が光る)
ヨタカ目ヨタカ科	ヨタカ	ヨタカ

(9) フクロウ目

① フクロウ (フクロウ科)

ア 対象種

フクロウ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) から フクロー、フグロー
- ・ その他 ゴロ、コロスケ、ゴロスケ、ゴンスケ、ホロスケ

エ 生息及び呼び名の状況

山林で特徴的な鳴き声をあげる留鳥であり、郡内全集落に生息した。

夜行性であり、夜になると神社の森や寺の大木、また当時旧東海道沿いに多くあったという松の大木等からホーホーといった鳴き声をあげ、それにより住民によく認識されていた。今では限られた集落でのみ鳴き声が聞かれるという。

本種の呼び名としては、「ゴロスケ」や「ホロスケ」をはじめ計7種を採録した。

郡内全域で標準和名である「フクロー」と呼ばれたほか、当時の高齢者を中心に郡内の広い範囲で昔からの呼び名である「ゴロスケ」と呼ばれ、また郡西部の加太・坂下地区から南部の昼生・合川地区にかけての集落では「コロスケ」、「ホロスケ」等とも呼ばれた。

なお、一部の人から「ホーホードリ」、「ホホホドリ」という呼び名の鳥は本種であるとする話がみられたが、他に合わせアオバズクとして整理した。

オ 聞きなし (抜粋)

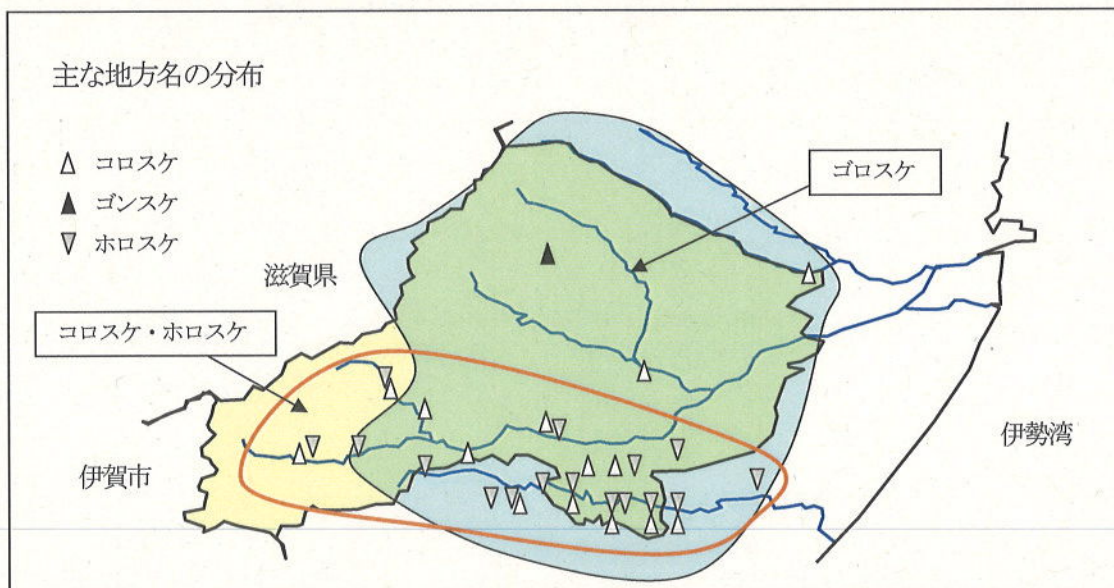
- ・ ゴロスケドシタ ・ ホロスケホッホー ・ ホーホーゴロスケ ドーシタ
- ・ コロスケホイホイ ナクモンクオーカ (: ころ助ほいほい 泣くもん食おーか)
- ・ ゴロスケホイホイ ノリツケホーセー (: 五郎助ほいほい 糊付け干ーせー)

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ゴロスケが夕方鳴くと天気になる」 ・ 「ゴロスケが鳴くと曇る」
- ・ 「ゴロスケが夜鳴くと雨が近い」 ・ 「フクローのメンタが鳴くと雨 (が降る)」

キ その他

昔は、夜遅くまで起きている子どもに「ゴロスケが鳴いたで、遅まで起きると連れてかれるぞ」等と言い、早く寝かせるための躰に使われた。



② コノハズク (フクロウ科)

ア 対象種

コノハズク

イ 生息情報

多くの集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 鳴き声から ブッポー、ブッポーソー

エ 生息及び呼び名の状況

山林で特徴的な鳴き声をあげるという鳥である。留鳥とされるが、当時の郡内では鳴き声の状況から一時的に生息した渡り鳥とみられる。

山林が近くに広がっていた多くの集落で、数少ないがブッポウソーといった特徴的な鳴き声が聞かれ、それにより住民に一定の認識がされていた。

本種の呼び名としては、「ブッポーソー」と「ブッポー」の計2種を採録した。

ほぼ郡内全域で「ブッポーソー」と呼ばれたほか、一部の集落で「ブッポー」がみられた。

当時の住民は鳴き声を聞くことがあっても実際にその姿を目にすることはほとんどなく、本種については、ブッポーソーといった特徴的な鳴き声の有無について聴き取りを行い、現在の知識として、その呼び名である「ブッポーソー」等は本種として整理した。

オ 聞きなし

- ・ ブッポウソー



③ アオバズク (フクロウ科)

ア 対象種

アオバズク

イ 生息情報

ほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 鳴き声から ホイホイドリ、ホーホードリ、ホホホドリ、ホロホロドリ
- ・ その他 チャゴイ

エ 生息及び呼び名の状況

山林で特徴的な鳴き声をあげるという夏の渡り鳥であり、当時はほぼ郡内全集落に飛来した。

近くの山林で、夕方にホーホーといった特徴的な鳴き声をあげる鳥として住民に一定の認識がされていた。

本種の呼び名としては、「ホーホードリ」や「ホイホイドリ」をはじめ計5種を採録した。

ほぼ郡内全域で「ホーホードリ」と呼ばれたほか、一部の集落で「ホイホイドリ」や「ホホホドリ」等がみられた。

当時の住民は鳴き声を聞くことがあっても実際にその姿を目にすることはほとんどなく、本種については、主に夕方にホーホーといった鳴き声をあげる鳥で「ホーホードリ」等の呼び名の有無を中心とした聴き取りを行い、一部の人からはフクロウの別名であるという話がみられたものの、多数の意見に従い本種の呼び名として整理した。

オ 聞きなし

- ・ ホイホイ
- ・ ホーホー
- ・ ホホッホホッ
- ・ ホホホ
- ・ ホロホロ

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ホーホードリが鳴くと天気」



(10) フッコウソウ目

① カワセミ (カワセミ科)

ア 対象種

カワセミ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 標準和名・生息地から カワセミ、カワゼミ、カワラ、カワラセミ、カワラゼミ
- ・ 体色から キスイ、ヒスイ、ヒスイドリ
- ・ その他 ミズドリ

エ 生息及び呼び名の状況

川やため池といった水辺での飛翔やその近くの本立でのとまりがよく見かけられる留鳥であり、当時はほぼ全集落に生息した。現在では清流環境を象徴する鳥ともなっている。

水に飛び込み魚を捕ることに加え、美しい青い体色をした川縁にいる小鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ヒスイ」や「カワラセミ」をはじめ計9種を採録した。

郡内全域で標準和名である「カワセミ」と呼ばれたほか、ほぼ全域で「カワラセミ」又は「カワラゼミ」とも呼ばれたようである。

また、その体色に由来する「ヒスイ」や「キスイ」も加太地区や坂下地区を除き、広く使われ、それらの分布上の違いはほとんどみられなかった。

当時の郡域では、本種はこうした数種の呼び名で広く呼ばれていたようである。

オ その他

隣接地域として聴き取りを行った亀山市関町福德では、ヤマセミの呼び名として「カワセミ」を採録した。



(11) キツツキ目

① コゲラ (キツツキ科)

ア 対象種

コゲラ、アカゲラ等

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 キツツキ
- ・ 玄関付近で木を叩くことから モンタタキ、
モンツツキ

エ 生息及び呼び名の状況

山林で木を叩くような音をたてる留鳥であり、
当時は山林が郡内に広がっていたことから、ほぼ
全集落に生息したようである。

巣穴を掘るためや餌を取るために、嘴で木を連続的につつくことで知られた鳥であり、一般
の住民が鳥の姿を目にすることは少なかつたが、当時は郡内のほぼ全域で木をつつく音が聞か
れそれによりよく認識されていた。

本種の呼び名としては、「キツツキ」や「モンタタキ」をはじめ計3種を採録した。

郡内全域で一般名の「キツツキ」と広く呼ばれたほか、家屋敷の玄関付近を叩いた（又は、
つついた）ように聞こえたことに由来し、石薬師地区と神辺地区・関町地区等の集落では「モ
ンタタキ」、また関町地区の鈴鹿川南岸から中ノ川沿いに河芸郡明地区、亀山地区の一部の集落
では「モンツツキ」とも呼ばれた。



コゲラ



(12) 雛鳥（孵化直後）等

ア 対象種

ツバメ、スズメ等

イ 採録した呼び名

- ・ 雛鳥（孵化直後） アカゴ、ドンビ、ドンビゴ、ドンビン、ドンビンゴ、ドンビンゴ、ドンビンドンブクレ、ドンブクレ、ドンボ
- ・ 飛べない シガンタ、シガンダ、シガンド、シクタ、シクタレ、シュクタレ、シューナ、シューナッポ



ウ 呼び名の状況

家の軒先にかけられたツバメやスズメの巣、又は野山の木々にかけられた巣から、時折、羽の生えていない孵化直後の赤い体色をした雛鳥が落ちてくることもある。

こうした雛鳥の呼び名としては、「ドンビ」や「ドンブクレ」をはじめ計9種を採録した。

ほぼ郡内全域で、「ドンビ」、「ドンビン」、または「ドンビンゴ」と呼ばれたほか、一部の集落で「ドンブクレ」や「アカゴ」がみられた。

当時の郡域では、形状がはっきりとしないものは「ドンビ」や「ドンビン」と呼ばれ、他にネズミの幼体、血を吸い膨れたヒル、大きくなりすぎたナスビ等の野菜類でも同様に使われたという。

一方、成長できずに途中で死んでしまったものや、成長したもののうまく飛ぶことができない状態の鳥の呼び名としては、「シガンダ」や「シクタ」をはじめ計8種を採録した。

郡の南北において大きく二つに分かれた呼び名がみられ、北部では「シガンタ」、「シガンダ」等、南部では「シクタ」、「シクタレ」等と呼ばれた。その他、主として実りの悪い作物を表す「シューナ」が一部の集落でみられた。

こうした呼び名は主に家の軒先等に巣をかけるツバメやスズメで使われたほか、鳥類だけでなく、他の動物にも同様な呼び名で使われたという。

